

## 研修報告書 No.19

県外研修医

1ヶ月間という限られた期間のなかで、とても充実した毎日を過ごさせていただきました。大学病院での2年間の研修では、若い入局員の先生に手技がいつてしまうためなかなかチャンスは回ってきませんが、膿胸の患者さんに胸腔ドレーンを留置したり、鼠径静脈での中心静脈カテーテルの挿入や、整形外科をローテーションしていなかった私にとっては初めての膝関節穿刺、トリガーポイントへの筋膜リリース注射など本当に様々な手技を経験させていただきました。また、これまでの2年間で外来を行うのは当直帯でだけでしたが、地域研修中は毎日のように外来診療に入らせていただくことができ、学ぶことがたくさんありました。短い時間でいかに患者さんの思いに耳を傾けつつ、たくさん外来患者さんと向き合うのかのバランスが本当に難しく感じました。あと数日で循環器内科医として毎週数コマの外来を持たせてもらう私にとっては、指導医がいる状況での外来研修はとても充実したものでしたし、この時期に経験できて本当によかったです。

また、病院以外での研修も新鮮なことばかりでした。訪問診療や訪問介護、往診、診療所や離島での研修にも参加させていただきました。実際に患者さんのご自宅に行くのは医療とは別に興味深いところがたくさんあり、様々な人が様々な環境で生活を送っていることを実感しました。訪問診療のなかでも一番印象に残っているのは自宅でのお看取りです。

「自宅に帰ろう」の言葉は病院でよく聞く言葉ですが、実際に終末期を自宅で迎え、そのまま病院に来ることなく自宅で最後を迎えることができたご家庭に先生方と一緒に寄り添うことができ、貴重な経験となりました。看護師さんたちとご家族の方が一緒に亡くなった患者さんの清拭を行っていて、その時のご家族の悲しみの中にも納得されているような表情がとても印象的で、医療には正解はありませんが、この家族にとってはこれが正解であったように思います。

そして離島の診療所での研修を始め、週末の観光では高知県の大自然も満喫することができました。高知県は想像以上に大きく、山川海と全て揃っています。桜が咲き始め、緑の中のピンク色が映える山、四万十川やインスタ映えで話題の仁淀ブルーといった川、海底が見えるほど透き通っていて、魚が泳ぐ姿が肉眼で見えるほど綺麗な海に感動しました。研修期間が夏であったら、毎日研修終了後に防波堤から海に飛び込んでいたでしょう。高知市から遠く、交通の便が良いところではありませんが、高知県を満喫するには最高の地域研修でした。港町のお魚は新鮮で美味しく、食べるのが大好きな私にとってご飯が美味しかったのも嬉しかったです。

医療行為以外にも学ぶことはたくさんありました。幡多地域の先生方には、「医師としてのあり方」のお手本を見せていただいたように思います。限られた医師で、限られた医療器

具で診察している幡多地域での医療は、地域の患者さんと向き合い、自分たちでできる範囲のことは自分で行わないと永遠に患者さんの治療は始まりません。できることはする、と言うと当たり前のように思えますが、大きな大学病院で研修していた私は、自分の専門分野でないとすぐに他科に紹介していたので、その精神を忘れていたように思います。もちろんできないことや専門的な治療が必要な患者さんを自分だけでどうにかするのは良くないと思いますが、その患者さんに対しては唯一の医師であるように治療介入していくことが大切なのだと学びました。

そして最後になりましたが、研修期間中ご指導していただきました先生方を始め、医療スタッフの方々や秘書さんなど様々な方の支えがあり、楽しく高知県での地域研修を行うことができました。4月から内科医としての一歩を踏み出しますが、高知県で学んだことを活かし、医師としてどのように地域と関わりを持っていくのかを考えつつ、患者さん一人一人と真摯に向き合える医師になるべく精進していきたいと思えます。